



学びと誇りが実感できるまち

～ 言葉を大切にした生活を！～

令和5年12月号

庄原市教育委員会
教育長 牧原 明人

いざ子ども走りありかん玉あられ (松尾芭蕉)

子供たちが活躍していることを紹介します。2つあります。

1つ目は、中学校合唱コンクールのことです。ここ3年間は、新型コロナウイルス感染症対策のため中止としていましたが、本年度は11月14日(火)に市民会館大ホールにおいて4年ぶりに開催しました。各中学校とも日頃からの練習の成果を発揮し、心を一つにした一体感のある響き合うハーモニーを発表しました。共通の課題曲である「翼をください」は5年後の「二十歳を祝う会」において、もう一度、ふるさとで学んだことを思い出しながら出席者全員で合唱する計画をしています。

2つ目は、各学校で研究公開を行っていることです。各学校では、学校教育目標に迫るため、研究テーマを決めて授業や学校行事などの取り組みを展開しています。本年度も、公開授業をする中で教職員や教育関係者をはじめ、保護者や地域の人たちにも、子供たちが、一生懸命取り組んでいる姿や成長している様子を参観していただいています。また、その学校の実践内容や成果・課題などを発表・提案するとともに、参加者の皆さんには忌憚のない感想や意見等をいただき、今後の取り組みの参考としています。

さて、今回は、言葉を大切にすることについてです。

今年のプロ野球日本一となった優勝チームは阪神タイガースでした。10月上旬、NHKの番組で、優勝チームの阪神・岡田彰布監督と藤川球児元投手との対談が行われました。その内容の一部を紹介します。

試合後に活躍した選手がヒーローインタビューを受けますが、岡田監督は、選手が何を聞かれても「最高で一す」と答える場面が気になっていたそうです。そこで「何でも『最高です』で済ませないこと。最高という言葉を使わずにちゃんと説明しなさい。ファンの皆さんはどういう感じで打てたのかとか、そういうのを聞きたいはずだから、それをきちんと言葉にして答えなさい。」と指導したそうです。言葉を大切にする習慣は、自分のプレーとしっかり向き合うことができるからでしょう。思いや考えを自分の言葉で表現することが自分を高めることにつながります。

私たちの生活を振り返ってみましょう。言葉は大きな力を持っています。言葉を大切にした生活を心がけましょう。

なお、右の詩の作者については、諸説ありますが不詳です。

「ひとつの言葉」

ひとつの言葉で	けんかして
ひとつの言葉で	仲直り
ひとつの言葉で	頭が下がり
ひとつの言葉で	心が痛む
ひとつの言葉で	楽しく笑い
ひとつの言葉で	泣かされる
ひとつの言葉は	それぞれに
ひとつの心を	持っている
きれいな言葉は	きれいな心
やさしい言葉は	やさしい心
ひとつの言葉を	大切に
ひとつの言葉を	美しく